

(写真上) ジャパンセル創業者 深澤一氏（現取締役相談役）ガラスと光のコンビネーションの良さに着目して会社設立。（写真下）代表取締役社長 深澤篤氏。柔軟な発想を大事にして販路拡大。

経済危機 不況 ものが売れない……。会社経営にはさまざまな困難がつきまといまいます。
『株式会社ジャパンセル』も同じように、これまで数多くの苦しい時期を経験してきました。
リーマン・ショックのときは、売上が半分に落ち込んだこともあったそうです。会社が苦しいとき、いったいどうやって乗り越えるものなのでしょう？
こんな素朴な問いかけに対し、創業者であり、社長を交代する数年前までジャパンセルを牽引してきた深澤一前社長（現取締役相談役）



社内に一歩足を踏み入ると、キラキラと光るガラス製品たちが迎えてくれる。

21 Unique Companies in Sagami-hara and Tama FILE 12

D A T A

会社名：株式会社 ジャパンセル
代表者：深澤 篤
所在地：東京都町田市小山ヶ丘 2-2-5-11 まちだテクノパーク
TEL：042-798-4621
URL：http://www.jpccell.co.jp

【株式会社 ジャパンセル】 運の良い会社は 人を大切にするネットワーク型

世界が認めるガラス接合のエキスパート
接着剤を一切使わずにガラスを接合する、
世界的な知名度を誇る独自技術

取材・文＝北條真貴子

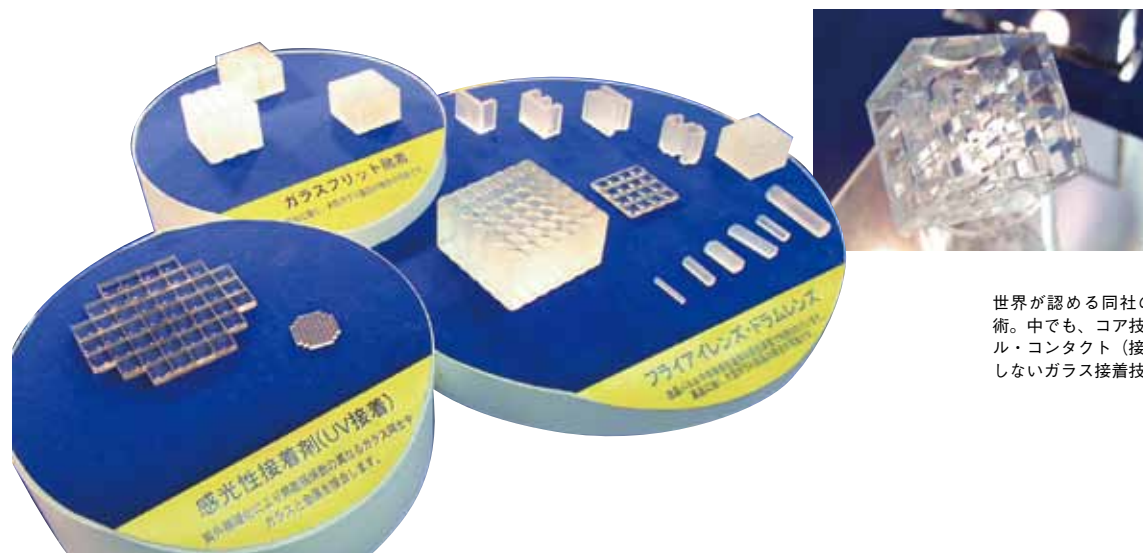


2001年に本社を移転。お客様視点にこだわり経済危機や不況を乗り越えた結果、社員数が50名を超え手狭になったため、隣接地に増床。

「この30年間、経済危機を感じたことがないんです。リーマン・ショックのときも大丈夫だと思えました。勤の勝負がずっと当たってきているんですかね……」
—— 勘!? 勘で経済危機を乗り越える?
穏やかな表情で「心は落ち着いていたんです」と語る深澤一前社長

から、思いがけない言葉が飛び出してきました。

ユーザーの気持ちになって
ものを考えるのがスタート



世界が認める同社のガラス加工技術。中でも、コア技術のオプティカル・コンタクト（接着剤を一切使用しないガラス接着技術）は秀逸。

の説明に驚きを感じていると、「働きの出どころというか、会社をやっていく根本にはモットーがあるんですよ」と言葉が続きました。

「ジャパンセルのモットーは、お客様を大事にする、嘘をつかない、損して得取れ、です。何でもかんでも商売をすればいいというのではなく、ユーザーの気持ちになってものを考えるのがスタートラインなんです」

それは経験に裏付けられた「儲けに走ると後が続きません。製品をつくったあとに商売が実る。損して得取れ」の精神です」という考えからでした。

そして、お客様を大事にする視点と同時に、社員に対しても温かい気持ちを持っていました。

楽しく仕事をする事が何より大切

深澤一前社長は「会社にいる時間を充実させること、社員が楽しく仕事することに重点を置く」という考え方をずっと貫いています。

「何より楽しく仕事をする事が大切ですからね。現場にいる社員にと

入社したら絶対にクビにしない

経営者として大切なのは、社員に楽しく仕事をしてもらうこと。

社員の内側からやる気を引き出し、自ら楽しんで仕事に取り組み社風を大事にしてきましたが、それでもリーマン・ショックのときには打撃を受けました。

社員の平均年齢は30代半ば。会社で技術を教えるのは、仕事を一通りこなせるようになるまでの5年。その後は、自分で考えた方法の実践を通じて技術習得と自己研鑽を図っている。



一つひとつ丁寧に心をこめて製造していく。これがジャパンセルの最大の強みかも。

「派遣社員には辞めてもらわないといけないかもしれない」という意見もあつたそうです。売上も半分に落ち込み、このままでは会社がたちいなくなるという現実に向面したのです。しかし、深澤一前社長は派遣社員にも全員残ってもらうという決断をしました。

も毎日の生活がある。入社したら最後、絶対にクビにしない」という前提でみなさんに働いてもらっています」

自分の勤を信じ、固い信念とともにどんなときも慌てず落ち着いて、しっかりと前を向いて進む。常にプラスになることを考え、楽しく仕事することに集中すれば、どんな不況の荒波も社員全員

が一丸となって無事乗り越えていくのです。

ジャパンセルでは、派遣社員を全員雇い続けた、その翌年に受注が回復し、危機を克服することができました。

気持ちが和む会話をする

深澤一前社長はとても前向きで

っては、1日の大半は会社の中にいます。人生のほとんどを会社で過ごすと言っても過言ではないので、会社にいる時間が増えたらいい、人生そのものがつまらないものになってしまうのです」

経営者として社員のためにこれまで取り組んできたことは、いかにして楽しく仕事をしてもらうか。明るく力強い意志をもって会社を動かしてきた深澤一前社長も、昔は1人で物事を抱え込む癖があったと言います。

しかし、社長になってから初めて自分のことだけでなく、周りの人のことも考えないといけないことに気がついたといいます。

会社全体を見渡す立場になってからは、どんなときでも前を向こう、という意識に変わりました。「こうなったらどうしよう……」と考えていたら、プラスに向かうまで倍の時間がかかってしまう。だったら、最初からプラスになることを考えよう。

そう考えることで、今ではその日どんなことがあっても夜はぐっすり眠ることができるほど、気持ちが強くなったそうです。

広々とした工場内。製品の品質を左右する社員に、働きやすさという環境を提供している。これもまた、ジャパンセルの品質を高めるのに一役買っている。



真剣な表情で製造を行う社員。その姿や表情には、やる気と真実さがみなぎっている。これもひとえに、楽しく仕事ができる環境のおかげなのであろう。

21 Unique Companies
in Sagami
and Tama

FILE 12

【株式会社 ジャパンセル】



軸のしつかりした考えを持っていま
す。

しかし、それを力説するような
重苦しさはまったくありません。
「人と会話をするときには、気持ち
が和む会話をすることを心がけてい
ます」

このやわらかな言葉を聞いた瞬
間、心がふわっと軽くなるのを感じ
ました。気持ちが明るくなるような
話が次々と出てくるのです。

人を力で動かそうとするのでは
なく、その人が自分から進んで行動
を起こせるように、自然な形で導い
ていく。それがジャパンセルをどん
どん活性化していきます。

勤を働かせるためには、人のい
いところを見て、人を信じること。
それらを経営に活かそうという杜風
によって、会社にツキが引き寄せら
れる。

会社経営の原点は良好な人間関
係にあるということかもしれませ
ん。

ジャパンセルに新しい風

ジャパンセルは今年で創立30周
年を迎えます。

と立場が変わったとき、見えてくる
ものが大きく変化したことに予想外
の驚きを感じたそうです。

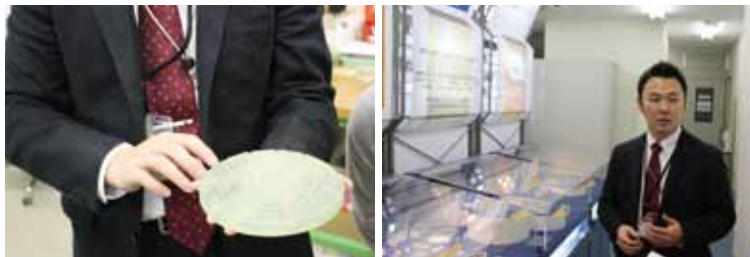
「社長」と「専務」を山に例えれ
ば、「頂上」と「8合目、みたいなも
ので、高さはそんなに違わないよう
な感じがします。でも、実際の「8
合目」はいくら頂上に近くてもまだ
山の途中です。前方の景色は見渡せ
ても、後方の景色は山自身が壁とな
って見えません。ところが頂上に立
つと、360度すべてが見渡せるの
です。社長の立場に立つ、というの
はこういうことなんだなあと本当に
驚きました」

すべてを見渡すことができ「自
分の意志で仕事の可能性を広げるチ
ャンスをつかんでもらいたい」とい
う思いから、1つの部署を1つの会
社と見立て、責任のある立場を社員
に与える。

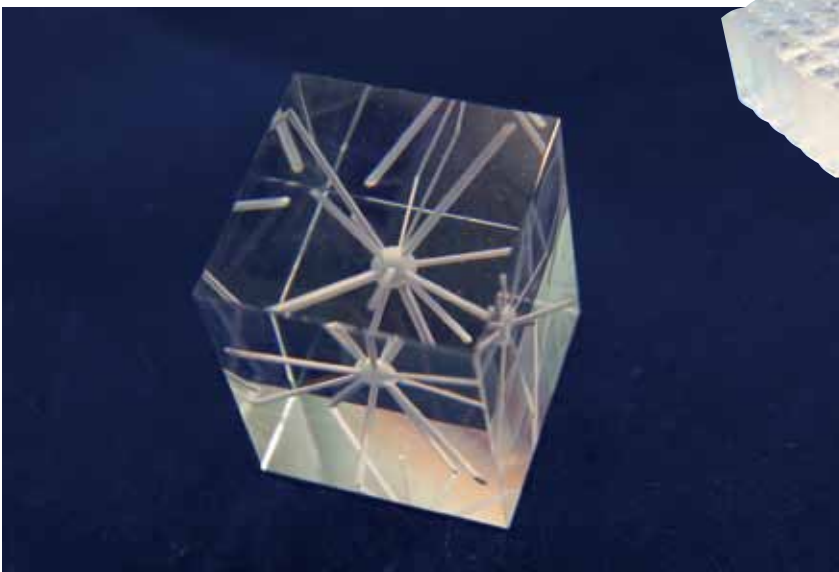
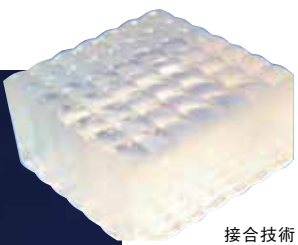
そのとき、あたかも自分で実際
に経営しているかのように自分の意
志・判断である程度のことができる
ような場をつくる。そこを担当する
社員には、社長のような役割を経験
してもらおう。

このように、社員の能力が最大
限発揮できるような環境をつくりた

自社技術の粋を結集したガラス加
工製品を前に、物静かな口調では
あるが、社員への思い、将来への
思いなどを熱く語る深澤社長。



接合技術を活かした、
均一な光源を生み出す
フライアイレンズ。



21 Unique Companies
in Sagamihara
and Tama

FILE 12

創業以来30年で蓄積された技術、若い社員のやる気、
そして深澤社長のチャレンジ精神に満ちあふれたリーダ
ーシップにより、さらなる高みを目指すジャパンセル。

待できます。

新しい取り組みに意欲的な深澤
篤社長は、専門知識にとらわれない
自由な発想も大切にしています。

「いつも素人発想でいられるよう、
常に心掛けています。物事は難しく
考えると応用が効かなくなってしまう
です。ものづくりににおいて『でき
ない』ということは最初から考えま
せん。例えば、ガラスをどこまで薄
く削ることができるか、技術者に遊
びで試しにやらせてみます。すると
10ミクロンの薄さまで削ることがで
きるんですよ。10ミクロンはコピー
用紙の10分の1ぐらいなので、かな
りの薄さです。ところが同じことを
仕事としてやってもらおうとする
と、急に『できない』と萎縮し始め
ます。こんな風に『できる／できな
い』は気持ちの持ちようが変わるん
です。だから仕事の上では、常に
『できる』という意識をもって取り
組んでいます」

社員にも社長と同じ 立場を味わってもらおう チャンスをつくる

深澤篤社長は、専務から社長へ

という、深澤篤社長の新たな取り
組みの一部を披露してくれました。

ひとりよがりにならず、色々な
人の存在で会社がり立っているこ
とを理解し、全体を見る視野の広
さ。

社長の「人への想い」が伝わっ
てきました。

「世界一になりたい

「製品の品質はもちろんのこと、信
用力、ガラス加工、営業マンの対応
など、すべてにおいて『ジャパンセ
ルは違う』とお客様から信頼される
ような会社に育てたい。将来的に
は、結晶物の加工や周辺物も取り入
れて一歩踏み込んだ組み立ても手掛
けていきたい」

深澤篤社長の未来はとても明確
です。

深澤一前社長による過去の蓄積
を生かし、その強みをしっかりと今
の時代につなげ、新たな成長に向け
て、「世界一」を目指す。

運の良い会社は「人を大切にす
るネットワーク型」。ジャパンセル
の良さは、この一言に表れていると
思います。